

'98ミラージュカップ・東北シリーズ

CMSC 仙台

## 高橋しげる選手、開幕以来の全戦ポール・トゥ・ウィンでシリーズチャンピオンに! 史上初



史上初、開幕以来全戦ポール・トゥ・ウィンの快挙達成の高橋選手の走りど、表彰台での喜びのバンザイ。

10月24日(土)・25日(日)、『98ミラージュカップ・東北シリーズ最終戦が宮城県「スポーツランドSUGO」で開催されました。参加・予選出走は28台、決勝は27台。決勝当日の天候は晴れ。朝から大勢の観衆が詰めかけ、熱気に包まれる中での開催となりました。

注目はCMSC仙台の高橋しげる選手。開幕以来4戦連続でポール・トゥ・ウィンという圧倒的な強さを見せつけてきました。ミラージュカップ・シリーズ史上初の全勝、しかも5戦連続のポール・トゥ・ウィンが達成される瞬間は刻一刻と近づいていました。高橋選手は予選で唯一人コースレコードを記録し、ポール・トゥ・ウィンの第一条件をクリア。2番グリッドはCMSC山形のエド・ムラサキ選手で、虎視眈々と5連勝阻止を狙っていました。

決勝は両選手ともまずまずスタート。激しいトップ争いが展開されましたが、後半に入ると、高橋選手がエド・ムラサキ選手を1秒、2秒と引き離し、やがて独走状態に入ります。そしてついに、その瞬間はやって来ました。

レース後高橋選手は、「うれしい! やりました。緊張しましたが、スタートでうまくエド・ムラサキ選手を抑えることができたのが勝因です。後半差が開いたのは、相手(エド・ムラサキ選手)のペースが落ちてきたからです。パーフェクトを意識したのは残り3周くらいからです。とても一人ではできないことです。周りの皆さんに感謝しています。」とのコメント。場内アナウンスも、ファイナルラップの最終コーナーの立ち上がりでは「もう大丈夫だ。パーフェクトウィン達成だ!」とヒートアップ。史上初の開幕から5戦全勝、全戦ポール・トゥ・ウィンという快挙。初のシリーズチャンピオンをパーフェクトウィンで締めくくりました。

### 高橋しげる選手からのコメント

昨シーズンは、最終戦までもつれ込んだ総合優勝が獲得できず非常に残念な年だっただけに、今シーズンは第1戦から気合いを入れて臨みました。たくさんの方々の応援と期待もあり、5戦すべてをポール・トゥ・ウィンという東北シリーズ初の、そして最高の成績で無事終了することができました。1999年のシーズンはこれ以上の成績(?)を目指し頑張りたいと思っています。応援いただいた皆様、スポンサーの皆様大変ありがとうございました。



### '98ミラージュ・カップ東北シリーズ

順位	ドライバー	ポイント					合計
		第1戦	第2戦	第3戦	第4戦	第5戦	
1	高橋しげる	15	15	15	15	15	75
2	エド・ムラサキ	12	9	12	1	12	46
3	七海幸裕	6	12	9	6	3	36
4	阿部修司	9	5	4	12	1	31
5	女鹿義和	7	7	7	1	7	29



'98ミラージュ・カープラザカップ・シリーズ第5戦

CMSC 山形

# エド・ムラサキ選手、荒天の富士で初優勝!シリーズチャンピオンに輝く!

'98ミラージュ・カープラザカップ・シリーズ第5戦が10月17日(土)・18日(日)富士スピードウェイで開催されました。台風の影響で、雨・風ともに強い荒れたコンディション。今シーズン、ミラージュ・カープラザカップ・シリーズとミラージュ・カープラザカップ・東北シリーズに参戦し続け、2シリーズとも常に上位争いを続けるエド・ムラサキ選手は、予選でポールポジションを獲得。エド・ムラサキ選手は、好スタートでトップをキープ。中盤7周目までに追いかける選手が次々とコースアウトする中、快走を続けて独走状態。最後は2位を約15秒離してのポール・トゥ・ウィン。シリーズ初優勝を飾り、シリーズポイントもトップ浮上ということになりました。エド・ムラサキ選手は「なぜだかわからないけど、雨のときは速いんですよ。」との感想を語ってくれました。

そして最終戦、こちらは台風の影響で決勝(8月30日)が順延となり、11月7日(土)に富士スピードウェイで開催されました。天候は曇り、コースコンディションはドライ。2番グリッドからのスタートとなったエド・ムラサキ選手は、ここで2位に入ればシリーズチャンピオン確定です。レースは、ポールポジションの久保選手とエド・ムラサキ選手を含め4台での接近バトル。一時、エド・ムラサキ選手は3番手に後退しますがファイナルラップで再び2番手を奪い返し、そのままチェッカーフラッグ。エド・ムラサキ選手にとって初のシリーズチャンピオンを見事にすることができました。

## エド・ムラサキ選手からのコメント

1998年は色々な意味でたくさんの新しい経験をしました。初めて走ったサーキットで得たものもたくさんありましたし、マシンセッティングもスリクタイヤも初めての経験だったので一つ一つがとても勉強になり、本当に自分のなかに得たものがたくさんありました。反省としては、カープラザではチャンピオンを取れたのですが、東北シリーズでは1勝もできないままシリーズ2位になってしまった



カープラザカップ初勝利を挙げたCMSC山形・エド・ムラサキ選手の走りと、シリーズチャンピオン決定の笑顔。

ことで、僕自身の未熟さを痛感しています。しかし、北のサーキットは僕に新たな緊張感を与えてくれました。レース全体で考えると、マシンのアドバンテージがあったのですが、完全にそれを活かして走れていなかったのもまだまだ勉強することがたくさんあると思っています。今年得た経験をこれからもっと積み重ねたい意味も含めて、来年はインターカップに挑戦していきたいと考えています。

## '98ミラージュ・カープラザカップ・シリーズ

順位	ドライバー	ポイント					合計
		第1戦	第2戦	第3戦	第4戦	第5戦	
1	エド・ムラサキ	7	6	12	12	15	52
2	久保 悟	15	7	9	15	0	46
3	新井 薫	12	9	15	6	0	42
4	横尾英則	1	3	7	7	12	30
5	中島千絵	2	15	1	0	5	23

'98全日本ラリー選手権 (4輪駆動部門)

CMSC 道北

# 鎌田豊選手最終戦も制して、シリーズチャンピオンに花をそえる!



無敵の強さを見せつけたCMSC道北・鎌田選手のCC4A。

## CMSC道北・鎌田豊選手 '98ラリーアート・ドライバー・オブ・ザ・イヤー ラリー部門も獲得!!

CMSC道北・鎌田豊選手は'98全日本ラリー選手権(4輪駆動部門)Bクラスに参戦し、全9戦中6勝しベスト5戦の有効ポイントでのパーフェクトチャンピオンを達成。'98ラリーアート・ドライバー・オブ・ザ・イヤーラリー部門を受賞しました。'94年全日本ラリー選手権/Bクラスシリーズチャンピオンを獲得し初受賞以来、4年ぶり2度目の受賞となりました。



'98ラリーアート・ドライバー・オブ・ザ・イヤー受賞式での鎌田選手。

'98全日本ラリー選手権(4輪駆動部門)の最終戦「第26回M.C.S.C.ラリーハイランドマスターズ'98」が10月17日(土)・18日(日)岐阜県高山市の南、岐阜県大野郡「飛騨位山スキー場」をスタート・ゴールにして行われました。天候は台風10号の影響で激しい風雨。SSは5本がキャンセルされ合計10本、SS総距離は予定の78.6kmから約41.8kmに短縮されました。Bクラスは最終戦の今回も参加車全車がミラージュ(CC4A)。前戦に今シーズン初のリタイヤをしたものの、今季5勝を挙げ、有効ポイントでのパーフェクトチャンピオンが決定しているCMSC道北の鎌田豊選手は、全てのSSでトップタイムを記録し、第1ステージ開始から第3ステージ終了まで一度もトップを明け渡さない完璧な勝利。無敵といった印象で、シリーズチャンピオンに花をそえる6勝目を挙げ、今シーズンを締めくくりました。2位には同じ道北の鷹野健太郎選手が入り、道北勢のワンツーフィニッシュという花丸つきの結果でした。

## 鎌田豊選手からのコメント

1998年はラリー形態が大きく変わり、全日本戦は2輪駆動と4輪駆動に分けられました。4輪駆動部門に出場するため、車両をCC4Aにしました。クロスミッション、エンジンと大幅なチューニングが可能になり、パワー不足と言われていたCC4Aも俄然速い車になりました。車の開発も先行してきたので、ライバルに大きな差をつけてチャンピオンになることができました。CC4Aはたしかに古い車ではありますが、とても性能の良い車ですよ。残念だったのは、勝てたラリーを落としてしまったこと。しかし、満足できる1年でした。

スポンサー各社、応援してくれた皆様には大変感謝しております。ありがとうございました。